

## 明石川（兵庫県）

谷口正也

兵庫県に位置する明石市はタコや鯛などを収穫する漁業で有名な町である。そんな海との交流が深い町にも大きな川が一本通っている。太平洋へと流れ出るその川は**明石川**という名をもち、神戸市の西区から26kmも流れ明石、そして太平洋へと繋がっているのだ。



幼いころから見てきたこの川。冬休みに親戚の家に遊びに行く時によく川をまたぐ明石大橋を渡った。川岸にはいろんな種類の昆虫や鳥が生殖し、子供たちにとって大人気の遊び場でもあった。夏にはそこでよく釣りもした。当時は鯉など川魚が橋の上から見ることができ、多くの人が釣りを楽しみに来ていた。また川の魚は非常に大きく、1メートルを超える鯉が釣れる時もまれにあった。鯉のほかになまず、どじょう、スズキ、サンフィッシュ、ハゼ、そしてフグも生息しているそうだそういう時には橋の上が見物客でいっぱいになり結構な大騒ぎになることもある。しかしけして綺麗な川と言えず、水はいつも泥で濁っておりとても泳ぎに入る気にはならない川であった。近くに工業地帯もあったが魚があんなに大きく育つのであれば大した環境汚染もなかったのであろう。



写真1：現在の明石川にかかる明石大橋：だいぶ綺麗になり沿岸がコンクリートで覆われているのがわかる。

僕が大学生になった今の川と幼き頃遊んだ川とを比べてみるといくつか変わった点がある。昔は兩岸土で成っており雑草もあちらこちらと不平等に突き出ていた。川の水も濁っており見るにも田舎にありそうな川だった。しかし当時はポイ捨てのせいかゴミがところどころに散乱していたのを覚えている。今は兩岸コンクリートで補強され川底も何か所かは岩やコンクリートがひかかれている。ゴミも市の清掃員やボランティアの活動の結果かあまり目立たないようになった。なんだかとても清潔感があり近代的な町の川らしくなったと思う。しかし妙なことに幼い頃橋の上から見えた大きな魚の姿が不思議に見当たらない。前より一目瞭然きれいになったに関わらず。やはり人間が思考する「きれい」や「清潔さ」は必ずしも自然界にとっては良い結果をもたらすには限らないのだろうか。雑草も刈り、岸や底をコンクリートで埋めると整理され衛生的に見えるかも知れないが実際人間は川の環境を変えているのではないか。人間の改革は明石川にとってはいい迷惑なだけかもしれない。そしてそこに住む生き物たちにとっては災難であろうに違いない。

しかし僕の祖母の時代はどうだったのであろうか。当時は神戸市に近い上流の方に住んでいたそうだが本当に人間が手をほとんど加えてない川だったそうだ。上流でもあって水もとてもきれいだったそうで夏には川に入って水遊びなどをして楽しんだらしい。なんだか僕の幼い頃の明石川と何となく似たような感じがする。そしたらつい最近になってから川は本当に変わったのだろうか。



写真2：昔の明石川：<http://web.pref.hyogo.lg.jp/contents/000072431.pdf>

僕にとって明石川は思い出がたくさん残っている場所である。環境問題にも直関連するが、真夏の太陽の下川岸で家族が魚釣りをする。そういうイメージを残し続けていける川で僕はあって欲しい。今は歩道も整理され朝の散歩をする人もいるが少し悲しい気がする。でも明石大橋から南を見ると、川の大きな河口とそれと繋がる太平洋が見える。そして遠くに霧で少し隠れた淡路島がある。その壮大でかつ落ち着いた美しい日本の風景は変わることがないと思う。